

平成29年度(2017年度)

管理事業名	交通対策事業				総合計画の体系	第6章 第2節	安全で魅力的なまちづくり 暮らしや都市活動をさせる基盤づくり			
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	8	土木費	(項)	2	道路橋梁費	(目)	5	交通対策費
部局名	土木部	予算執行所属		総務交通室						
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名									
一般事務事業 迷惑駐車対策事業 公共交通施設等対策事業 交通事故をなくす運動事業										
事業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違法駐車等防止重点区域における違法駐車防止啓発活動等により、市民生活に支障を及ぼすおそれのある違法駐車等を防止します。</li> <li>・吹田市地域公共交通総合連携計画に基づく事業を推進します。</li> <li>・公共交通の利便性の向上、利用者の増加、交通渋滞の解消を目指します。</li> <li>・コミュニティバスの運行により交通不便地域の緩和や、高齢者等の移動手段の確保、主要施設へのアクセス手段の確保を目指します。</li> <li>・高齢者、障がい者等の移動上及び施設の利用上の利便性及び安全性を確保を目指します。</li> <li>・交通ルールを守り、交通事故のないまちづくりを進めます。</li> </ul>									

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	成果指標の定義
コミュニティバス利用者数	人	133,209	142,947	151,740	千里丘地区で運行している「すいすいバス」の年間の利用者数
交通事故件数	件	1,046	1,046	1,033	市内において1年間に発生した交通事故件数
成果の説明	コミュニティバス利用者の増加により、公共交通不便地域の解消、高齢者等の移動手段の確保、主要施設へのアクセス手段の確保が進んでいます。交通安全教育、交通安全運動などの啓発活動により、市民の交通安全意識が向上し、交通事故が減少しています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	541	509	440	△68
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	245	78	93	15
経常収入 小計(a)	785	587	533	△54
給与関係費	85,175	75,334	84,227	8,894
物件費	2,118	6,727	8,097	1,370
維持補修費	-	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	60,366	52,728	124,765	72,037
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	-	-	-	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	6,683	6,180	6,892	713
退職手当引当金繰入額	724	△2,535	13,284	15,819
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	155,065	138,434	237,265	98,831
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△154,280	△137,847	△236,732	△98,885
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△154,280	△137,847	△236,732	△98,885
一般財源充当額	162,443	147,344	230,144	82,800
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	8,163	9,497	△6,588	△16,085

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
負担金・補助金・交付金等	コミュニティバス運行事業補助金の増 312千円 鉄道施設等耐震補強補助事業補助金の減 △9,289千円 交通バリアフリー化整備補助事業補助金の増 80,809千円
給与関係費	給与関係費の増 8,894千円
物件費	交通バリアフリー推進事業委託料の増 3,877千円 交通対策検討事業委託料の増 1,836千円 自転車走行空間整備事業委託料の減 △4,288千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	785	587	533	△54
行政サービス活動支出	163,228	147,931	230,678	82,746
行政サービス活動収支差額	△162,443	△147,344	△230,144	△82,800
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額合計	△162,443	△147,344	△230,144	△82,800
一般財源充当額	162,443	147,344	230,144	82,800
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	
----------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
市民1人あたりのコスト	平成27年度	367,510 人	421 円	市民1人あたり641円のコストがかかっています。 平成30年3月31日現在の吹田市人口で算出しています。
	平成28年度	369,522 人	375 円	
	平成29年度	370,072 人	641 円	
	平成27年度		円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	6,180	6,892	713
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	6,180	6,892	713
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	68,724	74,599	5,875
建物・工作物	-	-	-	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	68,724	74,599	5,875
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	74,904	81,492	6,588
建物・工作物	-	-	-	純資産	△74,904	△81,492	△6,588
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	0	0	0				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	△74,904	△81,492	△6,588
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	0	0	0	負債及び純資産の部合計	0	0	-

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

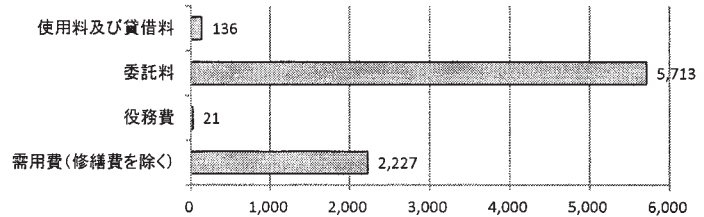
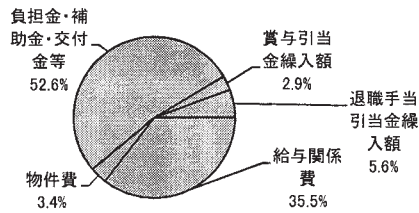
	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事日数	実人数	
事業従事人数	11人	人	日	人	104,404
給与関係費等	104,404千円	千円	千円	千円	104,404
内、時間外勤務手当	3,495千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差 B-A
受益者負担比率		0.3	0.4	0.2	△0.2
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		99.5	99.6	99.8	0.2

▽その他特記事項

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

事業費にかかるコストは35.5%が人件費です。また、負担金・補助金・交付金が52.6%となっており、コミュニティバス運行事業補助金30,246千円、鉄道施設等耐震補強補助事業補助金11,969千円、交通バリアフリー化整備補助事業補助金81,055千円、交通事故をなくす運動補助金999千円が使われています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

当事業は、受益者負担率比率が0.2%と低いですが、市の施策として取り組むべき重要な事業です。またコミュニティバスの利用者が増え交通事故が無くなれば終わりではなく、吹田市内全域において変化し続ける交通事情の変化に対し、当事業の素早い対応が求められます。